

話しことばのない重度知的障害児の要求行動の形成に関する研究

村中智彦*

本研究では、話しことばのない重度知的障害児の要求行動を形成するために、指導者はどの様に関わればよいのかの資料を得ることを目的とした。自発的な話しことばを持たず、動作による要求表現も乏しい重度知的障害児1名を対象に、特定の遊び場面における対象児の要求行動と、その受け手である指導者が対象児のどの様な行動を要求として察知し充足する傾向にあるかについての分析を行った。

その結果、対象児の「遊具を手を持って扱う動作」と「指導者に遊具を持たせる動作」が高頻度に観察され、これらは遊びに関連する要求意図を持つ行動と見なされた。また、指導者は、対象児の「遊具を手を持って扱う動作」と「指導者に遊具を持たせる動作」を要求と捉えて要求充足する傾向を示したが、それらの動作のすべてを要求充足しなかったことも見出された。そして、このような受け手の不安定な要求充足が重度児の要求行動に及ぼす影響について、今後検討することの必要性を示唆した。

キー・ワード：重度知的障害児，要求行動，要求充足

I. 問題と目的

重度の知的障害を示す子ども（以下、重度児）の中には、学齢期に達しても話しことばを持たないものが多い。このような重度児の自発的な伝達行動の指導において、まず標的とされるのは、機能性と実用性の利点から要求行動であることが多い(Halle, 1987⁶⁾)。要求行動の獲得とその積極的な使用は、自己の要求に基づいた生活の構築を可能にしていく。また、障害児本人の要求に基づいた支援サービスを提供することを目的とする昨今の障害児教育・福祉の動きからも、重要な伝達行動の一つである。

村井(1987)⁸⁾は、「人間は人と交流したいという根強い欲求を持っており、通常的手段ではそれが困難であっても、何とかその欲求を満たすために新しい方法を生み出す」と指摘している。話しことばを持たない重度児であっても、表情や動作などによって何らかの意図を伝えようとし、また、言語生活で得た子どもなりの伝達手段はあるであろう。

1970年代後半からさかんに行われている健常児を対象とした乳児期における前言語コミュニケーション研

究(e.g.,Bates, 1976¹⁾;Bruner, 1977²⁾;斎藤ら, 1981¹⁰⁾)の蓄積によって、非音声の行動も含めて幅広く伝達行動を捉える視点が定着するなど、重度児の療育・教育活動に寄与したものは少なくない(細淵, 1996⁷⁾)。しかし、成人に達してもことばを持たない知的障害者が存在する事実があり、このような重度児に対して、一様に、健常児から得られたデータや仮説を当てはめ、指導・支援をすすめることは妥当ではなからう。重度児独自の相互交渉の仕方とそれを通じた伝達行動の形成過程についての解明が必要である。重度児も「コミュニケーションできる」ことは、臨床の現場では、従来から経験的に知られていたと思われるが、具体的に、重度児がどのような様式によって意図を伝え、また、伝達行動として確立させていくのか、何がそれを可能にし、また困難にしているのかはよく解っていないといつてよい。

重度児がどのような様式によって意図を伝えるのかという伝達行動の形態について、高杉(1985)¹¹⁾は、その表出があまりにも微弱であるために目立たないこと、また、反応ないし対応行動が健常者と表面的に異なった行動種であること指摘している。また、Cirrin & Rowland(1985)³⁾は、重度児が何らかの非音声的手段

* 上越教育大学障害児教育実践センター

を有してはいるものの、その様相には個体差が著しいことを指摘している。これらの特徴は要求行動についても当てはまることであろう。こうした特徴は、要求行動の形成過程において、如何なる影響を与えるのであろうか。

藤原・加藤(1985)⁹⁾は、重度言語遅滞児3名を対象に要求行動における反応型(形態)の選択について検討した結果、充足者にとって確実に要求対象物を認識できる対象児の行動の反応型は、即時対応(即時強化)を可能にし早期に確立し、逆に、充足者にとって不明確な要求行動は、要求対象物の認識を困難とし、即時対応が難しくなり、結果として消去されると指摘している。つまり、受け手の要求の捉えとそれに随伴する「即時」応答が重度児の形態の形成に大きく関与することを示唆している。また、受け手の要求充足が、重度児の要求行動の形成を促すのであれば、受け手がどのような行動を要求として察知し充足する傾向にあるのかを明らかにする必要がある。

先に挙げた重度児の示す要求行動の特徴は、受け手の要求意図の察知とそれに伴う要求充足を困難にすると考えられる。同じ受け手であっても充足される行動が異なったり、同じ行動であっても相手によって充足されたりされなかったりといった不安定な充足状況が推測される。

以上の問題意識に立ち、本稿では、自発的な話しことばを持たず、動作による要求表現も乏しい重度知的障害児1名を対象に、特定の遊び場面における対象児の要求行動と、その受け手である指導者が、対象児のどのような行動を要求として察知し充足する傾向にあるかについての分析を行った。

II. 方 法

1. 対 象 児

21trisomy型のダウン症男児、M。筆者(以下、T)が関わりを始めたのは、Mが8歳6ヶ月のときで、精神薄弱学級3学年に在籍していた。その後、約一年半の間、関わりを継続した(村中、1996⁹⁾)。

津守式乳幼児発達検査の結果(CA:9歳0ヶ月)、発達年齢は1歳6ヶ月、運動4歳6ヶ月、探索1歳6ヶ月、社会1歳3ヶ月、生活習慣1歳9ヶ月、言語0歳11ヶ月を示した。言語では、18ヶ月の項目まで「できない」「ときどきできる」の記入が続き、「確実にできる」は「簡単ないつけを理解してする」「名前を呼ばれるとハイと返事をする」の2項目のみであった。また、新版K式発達検査を状況を変えて3度試みたが、検査

具を投げってしまうなど課題を遂行できなかった。身体障害はなく、聴覚にも異常はない。

母親はMの最も好む遊びとしてブランコを挙げた。ブランコを見つけると、ブランコまで走って行き座る。一人では漕げず、揺らして欲しいことを要求する際は、Tの手を掴んでブランコを持たせる動作を多く示した。Tが「ブランコする?」と問いかけると、自身の胸を叩くような動作をしたり、右手を瞬時に挙げる動作と同時に「アイ」と発声するなど、応答の伝達行動は認められた。Tがブランコを止めて「終わりにしようね」と言うと、表情を歪めて「ヤッ」と発声したが、Tに対して明確に向けた拒否ではなかった。

母親は、Mの要求について、表情や欲しい物の近くに行く、欲しい物を人に持たせる行動によってその内容を判断していると報告した。また、話しことばについて、「こんにちわ」「バイバイ」の挨拶が言えると報告したが、Mから自発されることはなく、発語するように繰り返し求められると、ひどく歪んだ音で発声した。

以上のように、Mは、学齢期になっても、自発的な要求言語を持たず、人の手を引く、人に持たせる、物に接近するといった直接的行動を示すことによって、要求を伝える子どもであった。

2. 自由遊びの設定

Tが関わった約一年半の間、大学のプレイルームにおいて、週一回、下校後の約一時間、Tとの個別の自由遊びを行った。そのうち、9歳0ヶ月時~10歳0ヶ月時の間の遊びの様子をビデオカメラで録画した。

ビデオ録画を始めた少し前のセッションにおいて、TがボールをMに手渡すと、MはTのいない方向にボールを投げ、Tがそれを取りに行くといったやりとりを繰り返す遊びが観察された。その遊びによって、Mの笑い声や発声がそれまでのセッションと比較して顕著に増え、Tに対してボールを要求するような行動も活発化する傾向にあった。Tは、この遊びに指導の手がかりを得て、このボールを介したやりとりやレパートリーにあったトランポリンをベースに遊びを展開した。TはMに対して指示的な働きかけや行動の禁止は行なわず、M自らの遊具やTへの働きかけをできる限り捉え、積極的に反応を返すようにした。また、母親から家庭や学校生活における遊びの様子や好みの物を聞き取り、Mが興味を持ちそうな玩具を適宜取り入れるなどの工夫を行った。

3. 観 察 場 面

録画したVTR中、9歳1ヶ月時から約2ヶ月半の

期間に頻繁に見られ、遊び時間の大半を占めた布ブランコ遊び(Tが「布ブランコ」と名付けてMに提示していた)を観察場面とした。

この布ブランコ遊びでは、Mの笑い声や発声、遊びに使用する遊具を繰り返し操作したり、Tに対して自ら布を手渡すなどの行動が、際だって多く観察された。また、布ブランコ遊びを2度目に観察したセッションにおいて、プレイルームに入室してすぐさま、M自ら玩具箱の中から布と玩具を取り出し、それらをTに持たせようとする行動も観察された。これらのことより、この遊び場面はMの要求行動が生じやすい場面と考えた。

布ブランコ遊びは、連続する9つのセッションに観察された(セッション1~9)。遊びにおけるセッティングを図1に示した。また、セッション1~3のVTRをもとに、遊びの構造を文字転写したのが図2である。図1のように、使用する遊具はトランポリン、布(70×140cm)、玩具(手のひらサイズで振ると牛の鳴き声がある)の3つで、どれもトランポリン上にある。同時に、MとTの両者もトランポリンに上がっている。セッション1~セッション9のVTR中、これらの物理的条件が揃い、図2に示した遊びの構造を維持している場面のすべてを抽出した。

4. 分析

分析は、以下の2点について行った。

- ① Mの遊びの開始を要求する行動(以下、Mの要求行動)の形態
- ② Mの要求行動に対するTの応答行動(以下、Tの応答行動)の形態

分析の対象とした相互交渉は、遊びが開始されるまでの交渉とし、遊びの開始を図2の下線部、MとTの両者がトランポリンを跳び始める時点とした。

Mの要求行動とは、遊びが開始されるまでの交渉内において、Tからの働きかけがない状況(図2に示した交渉例の①と②)で生起するMの遊びの開始を要求するもしくは要求すると推定される行動と定義した。実際には、VTR録画より、Tに身体を向けてTを見ながら起こした行動とした。また、Tを見ず、身体も向いていなくてもTがMの行動に反応し、何らかの応答をした場合は、要求行動に含めた。このMの要求行動に対してTが「布の片端を持って跳ぶ」という応答をすれば、遊びは開始された。従って、要求対象はTの「布の片端を持って跳ぶ」行動であり、Tの「布の片端を持って跳ぶ」応答によってMの要求は充足されると考えた。

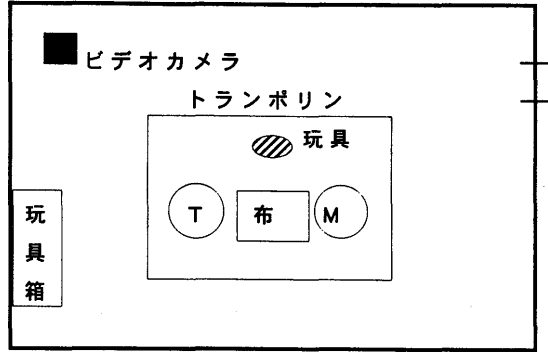


図1 布ブランコ遊びのセッティング

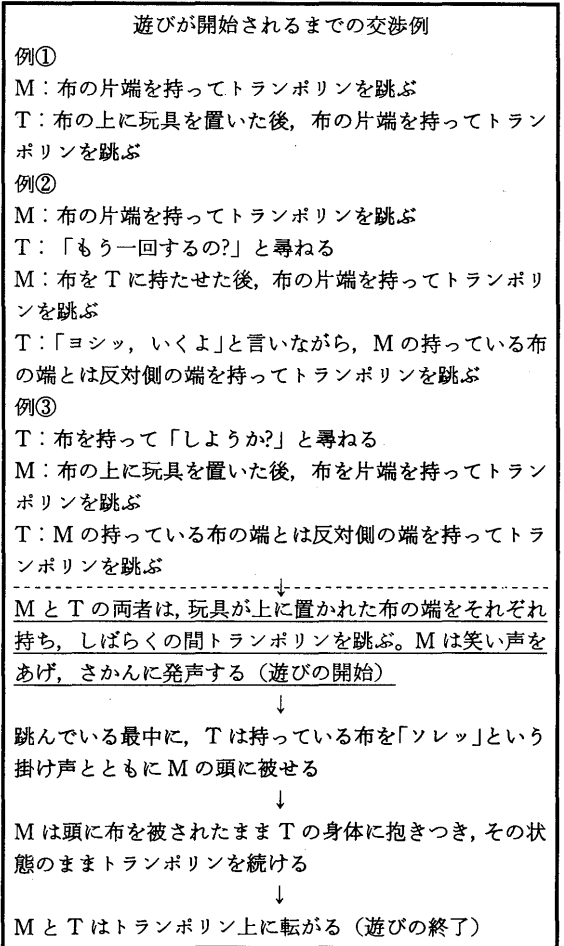


図2 布ブランコ遊びの構造

Tの応答行動とは、Mの要求行動の生起中もしくは生起直後（Mの要求行動終了後約1秒以内）に生起するMに向けた行動と定義した。

VTRより、Mの要求行動とTの応答行動を文字転写した。なお、行動の1単位は、同時に生起する行動群および行動の連鎖の内、約3秒以内に生起した行動群（藤原、1988⁴⁾）とし、それぞれの形態についてセッション毎に生起頻度を数えた。結果は9セッションの合計頻度によって分析した。

III. 結 果

Mの要求行動に対するTの応答行動の形態とその頻度を示したのが表1である。Mの要求行動とTの応答行動の形態は、合計頻度の高い順に並び替えた。発声では、2回以上観察された音を「」で示し、カタカナで表記した。

1. Mの要求行動

表1に示したように、セッション1～9を通じて、13の形態が観察された。すべての形態の合計頻度は99回であった。

表1からも明らかなように、『布の片端を持って跳ぶ・立つ』（29回）（以下、『』はMの要求行動の形態を表す）『布の上に玩具を置く』（19回）『布の片端・玩具をTに持たせた後に布を持って跳ぶ』（16回）『布の片端・玩具をTに持たせる』（13回）『布の上に玩具を置いた後に布を持って跳ぶ』（12回）の上位5つの形態の頻度の合計は89回で、全要求行動の89.9%を占めた。

これらの高頻度であった5つの形態について、その内容を見ると、5つとも動作によるものであった。また、2つの形態を連鎖した1形態も観察された。すなわち、『布の片端・玩具をTに持たせた後に布を持って跳ぶ』動作は、『布の片端・玩具をTに持たせる』動作と『布の片端を持って跳ぶ・立つ』動作を連鎖したものであった。同様に、『布の上に玩具を置いた後に布を持って跳ぶ』動作は、『布の上に玩具を置く』動作と『布の片端を持って跳ぶ・立つ』動作を連鎖したものであった。また、『布の片端・玩具をTに持たせる』動作は、頻度は1回と少ないが、発声や『布の上に玩具を置く』との連鎖も認められた。

2. Tの応答行動

表1に示したように、5つの形態が観察された。表中におけるTのa～eの形態の内容を表の下に示している。なお、実際にVTRをそのまま文字転写した内容は5つ以上であったが、内容が類似したものをとりまとめて整理し、5つのカテゴリーを設けて頻度をカウ

ントした。例えば、b:【「やるの?」「もう一回する?」と尋ねる】（以下、【】はTの応答行動の形態を表す）のカテゴリーには、【「Mくん、ブランコやるの?」と尋ねる】という応答行動も、【人差し指を立てた動作モデルを示して「もう一回やるの?」と尋ねる】という応答行動も含まれた。

【布の片端を持って跳ぶ】（要求充足）形態の頻度は最も高く、56回であった。そのうちの53回、94.6%は、Mの要求行動として高頻度であった上位5つの要求行動に対してなされていた。ただし、表1からも明らかなように、Mの高頻度であった5つの要求行動のすべてに対して【布の片端を持って跳ぶ】応答がなされてはいなかった。例えば、Mの『布の片端を持って跳ぶ・立つ』の要求行動に対して、Tの【布の片端を持って跳ぶ】（要求充足）応答が15回なされていた一方、【「やるの?」「もう一回する?」と尋ねる】の応答が2回、【座ったままMの顔を見る】が7回、【「玩具どこに行った?」と玩具の所在を尋ねる】が3回、【Mから視線をそらす】が1回と多様な応答が認められた。

表1より、Tの【布の片端を持って跳ぶ】（要求充足）応答とMの高頻度であった5つの要求行動との関連を見ると、Tの【布の片端を持って跳ぶ】応答は、Mの『布の上に玩具を置く』と『布の上に玩具を置いた後に布を持って跳ぶ』の2つの要求行動に対してなされた割合が高く、それぞれ89.5%、83.3%であった。

IV. 考 察

1. Mの要求行動

Mは13の要求行動の形態を示した。その中でも『布の片端を持って跳ぶ・立つ』『布の上に玩具を置く』『布・玩具をTに持たせた後に布を持って跳ぶ』『布・玩具をTに持たせる』『布の上に玩具を置いた後に布を持って跳ぶ』の5つの動作の頻度は高く、全要求行動の約9割を占めた。

これらはMの布ブランコ遊びの開始を要求する、もしくは要求と推定される行動であった。しかしながら、これらの行動のすべてが、本当にMの要求に基づく行動であったのかという問題がある。さらに、要求行動であれば、要求する対象は特定しているはずである。つまり、要求対象をTの【布の片端を持って跳ぶ】応答に特定化していたかの問題もある。このような要求行動の機能に関する問題は、他者に向けた明確な要求行動を持たず、その表出が微細な重度児の場合、頻繁に生じる問題であろう。以下に、行動形態の内容から、要求の伝達機能について検討する。

表1 Mの要求行動に対するTの応答行動の形態とその頻度

| | 行 動 形 態 | Tの応答行動 | | | | | 合計 |
|----------------------------|---------------------|--------|----|----|----|---|----|
| | | a | b | c | d | e | |
| M の 要 求 行 動 | 布を片端を持って跳ぶ・立つ | 15 | 2 | 7 | 3 | 2 | 29 |
| | 布の上に玩具を置く | 17 | 2 | | | | 19 |
| | 布・玩具をTに持たせて布を持って跳ぶ | 7 | 3 | 3 | 3 | | 16 |
| | 布・玩具をTに持たせる | 4 | 6 | 1 | 2 | | 13 |
| | 布の上に玩具を置いた後に布を持って跳ぶ | 10 | 1 | 1 | | | 12 |
| | 布を持って広げると同時に発声 | 1 | | | 1 | | 2 |
| | 布をTに持たせると同時に発声 | | 1 | | 1 | | 2 |
| | Tの手を持つ | | | 1 | | | 1 |
| | 布を持って揺らす・広げる | | 1 | | | | 1 |
| | 布を頭に被る | | 1 | | | | 1 |
| | 布をTに持たせて布の上に玩具を置く | 1 | | | | | 1 |
| | 右手を振ると同時に発声 | | 1 | | | | 1 |
| | 右手を振ると同時に「イッカ」 | 1 | | | | | 1 |
| | 合 計 | 56 | 18 | 13 | 10 | 2 | 99 |

Tの応答行動

- a : 布の片端を持って跳ぶ (要求充足)
- b : 「やるの?」「もう一回する?」と尋ねる
- c : 座ったままMの顔を見ている
- d : 「玩具どこに行った?」と玩具の所在を尋ねる
- e : Mから視線をそらす

高頻度に観察された5つの動作は、「布の片端を持って跳ぶ・立つ」「布の上に玩具を置く」「布・玩具をTに持たせる」の3つの要素から成る。そのうち、「布・玩具をTに持たせる」動作は、「物を人に持たせる」動作である。「物を持たせる」という人への直接的な伝達の動作は、日常において頻繁に観察されていた。従って、「布・玩具をTに持たせる」動作は、遊びに関連する要求の意図を持つ動作と捉えてよい。そして、他の「布の片端を持って跳ぶ・立つ」と「布の上に玩具を置く」という2つの動作の内容を見ると、どちらも布や玩具という遊具を手にとって扱う動作である。これらは「布・玩具をTに持たせる」動作と連鎖して生起する使用が認められたことから、要求の意図を持つ動作と考えてよいであろう。以上のことから、高頻度に観察された5つの動作は、その強さや明確さはともかく、要求の意図を持つ行動であったといえる。

なお、要求対象の特定化については、本分析から推察をすすめることは困難である。動作の内容を見ると、遊びに関連して何らかの要求の意図を持つ行動であったことは推察できるのだが、Tの注意を確実に喚起し、また要求対象を特定化するような明瞭な形態とはいえない。今後、視線や身体の向きなど定位性を有す

る行動も含めて、重度児の示す伝達行動の形態の詳細な分析が必要である。

2. Tの要求充足

Tの【布の片端を持って跳ぶ】という要求充足の9割以上は、上述したMの遊びに関連する何らかの要求意図を持つ5つの動作に対してなされていた。すなわち、Tは、Mの布や玩具という遊具を手にとって扱う動作と人への直接的な動作を、Mの要求として察知し、そして実際に充足する傾向を示した。特に、Mの布や玩具を手にとって扱う2つの動作を要求充足していた。

なぜ、Tは、そのようなMの動作を要求と捉えて充足したのであろうか。おそらく、指導者であるTの構えが関連していると考えられる。Tの構えとは、Mの遊具やTに対する働きかけをできる限り捉えて積極的に反応を返すようにした姿勢である。Tは、Mの遊具を手にとって扱う動作を見て、それがTに対して明確に向けられた動作ではなく、また要求対象を特定化する明瞭なものでなくても、要求と捉えて充足したのではないかと考えられる。

しかし、Tは、Mの遊具を手にとって扱う動作や人への直接的な動作に対して、常に、そのすべてを要求充足したわけではなかった。その理由として、Mの示

したそれらの行動が、Tの注意を確実に喚起し、また要求対象を特定化する明瞭なものでなかったために、そのすべてをMの要求と捉えることが難しかったと考えられる。その表れとして、Tは【「やるの?」「もう一回?」と尋ねる】というMの意図を確認もしくは明確化するような言語的応答を幾度も行っていた。さらに、Mの行動に対して【座ったままMの顔を見ている】応答の仕方、Mの行動に要求意図があるか否かを判断し、その要求を充足してよいかどうか迷っていた表れと考えられる。

以上のように、Mの反応を積極的に捉えようとしたTは、Mの遊具を手を持って扱う動作や人への直接的な動作を見て反応し、要求と捉えて充足する応答を多く示した。しかし、その一方で、それらの動作のすべてを要求充足したわけではなかった。

予測したとおり、受け手は、重度児の示す同じ行動であっても要求充足したりしなかったりといった不安定な要求充足の仕方を示した。この受け手の不安定な要求充足は、受け手が常に注目しているとは限らない日常場面では、さらに顕在化することが推測される。そして、このような受け手の要求充足は、健常児の伝達行動の形成過程と比較して、目立った特徴の一つと考えられる。藤原・加藤(1985)⁶⁾は、受け手の要求の捉えとそれに随伴する「即時」応答が重度児の要求行動の形成に大きく関与することを指摘している。つまり、受け手の不安定な要求充足の仕方は、重度児の要求行動の形成においてマイナス要因として作用するであろう。このような受け手の不安定な要求充足の仕方が重度児の要求行動に与える影響について、セッション毎、さらにセッション内における時系列的な観点からの実証的な研究が今後必要である。

謝 辞

本稿は修士論文の記録の一部をまとめなおしたものである。Mとの出会いを与えて下さり、御指導して頂きました広島大学学校教育学部教授長澤泰子先生に深

く感謝致します。

引用文献

- 1) Bates, E. (1976) Language and Context : The acquisition of Pragmatics. Academic Press.
- 2) Bruner, J. S. (1977) Games, social exchange and the acquisition of language. Child Language, 5, 391-401.
- 3) Cirrin & Rowland, C.M. (1985) Communicative assessment of nonverbal youths with severe/profound mental retardation. Mental Retardation, 23, 52-62.
- 4) 藤原義博(1988) 言語遅滞児の微弱な要求行動の分析. 上越教育大学紀要第7巻, 185-195.
- 5) 藤原義博・加藤哲文(1985) 重度言語遅滞児の要求言語行動における反応選択. 発達障害研究, 7, 42-51.
- 6) Halle, J. W. (1987) Teaching language in the natural environment: An analysis of spontaneity. Journal of Association for Persons with Severe Handicaps, 12, 29-37.
- 7) 細淵富夫(1996) 重度・重複障害児のコミュニケーション研究をめぐる諸問題. 障害者問題研究, 23, 307-314.
- 8) 村井潤一(1987) 言語と言語障害を考える. ミネルヴァ書房.
- 9) 村中智彦(1996) 重度精神遅滞を伴うダウン症児のコミュニケーション行動の発達. 修士論文.
- 10) 斉藤こずえ・武井澄江・荻野美佐子・大浜幾久子・辰野俊子(1981) 生後2年間の伝達行動の発達—母子相互作用における発声行動の分析—. 教育心理学研究, 29, 20-29.
- 11) 高杉弘之(1985) 障害児の信号系活動と初期学習. 発達障害研究, 6, 35-41.